

(仮称) 国立市立学校給食センター食育ビジョン(素案)に対するパブリックコメントの実施結果

【募集期間】 令和4年7月15日から令和4年8月5日まで

【提出方法】 郵送、FAX、メール、持参(回収箱への投函)

7名の方から76件のご意見をいただきました。

住所、氏名が未記載のご意見や募集期間外にいただいたご意見は下記に掲載されておりませんが、事務局で確認し、参考にさせていただいております。

No.	該当部分	ご意見の要旨	市の考え方
全体として			
1		<p>・全体として、話を広げすぎ。学校給食に絞ったビジョンを作してほしい。</p> <p>P.1「学校給食にとどまらず 市全体の食育の推進に貢献する」とあるが、まずは学校給食にとどまって、そこが完璧にできてから次に進んでください。いくら業務委託したからといってなんでもすぐにできるわけがない。</p> <p>・市民に対しての食育ビジョンは別途作るべきです。</p> <p>・給食センターの活動についてのもので、対象を学校給食に限定し、市民の食についての言及はすべて削除してください。「B. 各項目について」の中でも書いてありますが、個人の生活のあり様や各家庭での食事については、行政が口を出す筋合いのものではありません。この「食育ビジョン」はその前提を大幅に逸脱しています。認識を根本的に改めてください。</p> <p>(以下上記に関連するご意見を掲載)</p> <p>・「市の食育」はいりません。学校給食に限定したもので結構です。</p> <p>・「市民が……」の一文はいりません。大きなお世話です。</p> <p>・19行目の下の図「市全体の食育」などいりません。</p> <p>・孤食はいけないことですか。一人で食べたいということはありませんか。そもそも、人の食事のあり様に行政が口を出すべきではありません。</p> <p>・「国立市産農産物の普及啓発」とありますが、学校給食とは関係ないことです。農家の援助というなら農業振興の部署で考えることです。さらに、市民に対して「啓発する」などという思い上がった上から目線の言い方はしないでください。市が宣伝するというなら、他の業種についても同じように市が宣伝をしないと不公平になります。</p> <p>・「ライフスタイルに合った健全な食生活」とありますが、どんなライフスタイルがあるのですか。また、その「ライフスタイルに合った健全な食生活」とはどんな食生活ですか。そしてその情報を発信するとのことですが、大きなお世話です。自分の食事くらい考えられませし、困った時にはいろいろな情報を探せばよいだけです。その中に給食センターが入る必要はありません。情報発信ではなく、本来の業務に専念された方がよいと思います。とにかく、市民の食生活に介入するのはやめてください。</p> <p>・「食事づくりに参加したり」とありますが、調理施設を各学校に作って昼食を子どもが作るというのですか。それとも家庭でやれというなら、大きなお世話です。</p> <p>・「望ましい食習慣」とはどんなことを指していますか。各家庭の、あるいは一人一人の食習慣はみんな違います。行政が勝手に市民の「食習慣」を決めないでください。不要です。</p> <p>・「保護者の食生活全体の改善を促します」とありますが、『思い上がるな!』の一言です。</p> <p>・「各家庭に合った朝食スタイルを提案していきます」とありますが、こんなことができるのでしょうか。思い上がりです。このようなことをやっていいと本当にお考えになっているのですか。給食センターの職員の方々は、毎日、市役所から「これを食べろ」と言われても何とも思わないのでしょうか。尊厳とはいいませんが、親を、市民を馬鹿にしています。</p> <p>・「家庭的な給食を目指します」とありますが、この「食育ビジョン」では、家庭は食の提供組織として十分でないという認識ではなかったのですか。多くの家庭で中食をしたり冷凍加工品を使っていると思いますが、それではダメということでしたね。ここでの「家庭」は、きっと給食センターの考える「理想的な家庭での食生活」という意味なのでしょうが、市民の家庭を評価するようなことはやめて下さい。</p> <p>・試食会に参加すると「国立市の食育の一層の活性化」が図られるとしていますが、本当ですか。試食会に参加したい人はすればよいですが、「市民の食育」などは考えなくて結構です。</p> <p>・家庭での食事について介入することはやめてください。共食のメリットは本当ですか。共食しても「伝統的な食文化の継承」ができるわけではありません。また、市民への「周知・啓発」も大きなお世話です。</p> <p>・「市全体の食育」を考えておられるようですが、大きなお世話です。上意下達の発想で</p>	<p>当ビジョンは、学校給食の取組を中心としつつも、食に関わる課題解決や食育の推進についても貢献していくことを目指し作成しております。</p> <p>対象を学校給食以外、子ども以外に広げることによって、市民全体の食を通じた健康増進を目指すこととなり、ひいてはそれが、子どもの健康にもつながっていくのではないかと考えております。</p> <p>文言についてのご指摘は、今後の参考とさせていただきます。</p>

す。

- ・「市民の食生活の改善」などしなくて結構です。
- ・「幅広い世代の市民のみなさまに学校給食に慣れ親しんでいただき、そのことを通じて共に国立市の食育を推進していく」とありますが、市民すべてが学校給食に慣れ親しむ必要性はありませんし、市民の食について市からとやかく言われる必要はありません。削除してください。
- ・新しい給食センターを「市全体の食育の拠点」とするとありますが、給食センターは学校給食に関する活動に限定し、市民の食に口を挟まないことを求めるとともに、市民は「市民のみなさまが食を通じて豊かな生活が送れる一助となるよう」なことを給食センターに期待していませんので、削除してください。

・言葉の使い方がいい加減というか、美しい言葉で書かれた意味不明な部分がたくさんあります。また、根拠不明の文章もあります。具体的なことが読み手に分かるようにするとともに、根拠不明の文章は削除してください。例えば、「健全な食生活」とか「地域のつながり」と使われていますが、人によって捉え方が違います。さらに、それが普遍的に存在するものであると思わせるようになっていることは、欺瞞的であるといえます。

(以下上記に関連するご意見を掲載)

・「食事内容の偏り、食事マナーの軽視、行事食が継承されないなどの課題」の根拠は何ですか。

・「外食や加工食品の利用増加により・・・生活習慣病の増加につながっています。」と読めますが、原因と結果の分析は本当ですか。

・「若年期から食の大切さを学ぶ」とありますが、食育が始まって 15年以上経ちますが、食育を学んだ人は「健全な食生活」ができていのでしょうか。

・「健全な食生活」とは一体、三食でどんな食事を摂ることでしょうか。そして、それ以外の食事が「健全でない」という根拠は何でしょうか。

・食育基本法での位置付けを書いています。この記述の根拠はあるのでしょうか。食育ができていないと、知ることも、体力をつけることも、さらに「徳(何のことだか私も分かりませんが)」を身につけられないということになります。つまり、「食育」に無関心な人はダメな人になるということになります。そんなことはありません。食育基本法の文章をそのまま使うのではなく、その通りなのかどうか検討して使うことが必要です。

・「『食』を選択する力」とは何ですか。雰囲気だけの意味不明な言葉は使わないでください。もし選択する力というものがあるとすれば、人それぞれがそれまでの人生の経験を元に自分の食べるものを判断できることであり、行政からの指境や指示は拒否できる力でしょう。その力を「習得」させることが給食センターでできるのですか。

・「健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育」とありますが、そんなことができるのでしょうか。食育基本法を作った人やこの「ビジョン」を作った人はもちろん実践しているのでしょうか、その他大勢の国民はどうでしょうか。食育を 20年間してきて、少しは増えたのでしょうか。どちらにしても不要な内容です。

・「解決すべき問題が数多く存在」とありますが、具体的にどんな問題があるのですか。

・「国立市の地域性や独自性」とありますが、立川市や国分寺市に比べてどんなことですか。全国の中でも狭く、市の境界などすぐにまたげる国立市での食生活で、地域性や独自性があるのでしょうか。

・「望ましい食生活」とは、どんな食生活ですか。勝手に決めつけないでください。

・保護者が欠食すると子が欠食するということを言いたいのかもしれませんが、「相関がある」とことと、因果関係があることは別です。結果と原因がはっきりしているなら根拠を示すべきです。「相関も見られる」という曖昧な表現をすべきではありません。

・(2)の内容は大きなお世話です。食育で「地域のつながりを深める」ことはできるのでしょうか。そもそも「地域のつながり」とは何で、「深める」とはどのような状態になるのでしょうか。中身のない言葉の押しつけは洗脳です。

・「地域においては、近所付き合いの希薄化がみられます」とありますが、根拠は何ですか。もし希薄化がみられるというならば、そういう社会を作ってきたのは日本の政治を担ってきた自民党であり、その方々の反省から出発すべきではないでしょうか。

・「市民活動団体」が何を指しているか分かりませんが、どうして、そういう人によって「(市民の)交流の機会を増やし、食を通じた地域のつながりを深めて」いかねばならない

いただいたご意見を参考に、必要な情報を追記したり、不要な文章、分かりにくい表現を改め、多くの方に納得いただける掲載内容を検討いたします。

のですか。こんなことはいいません。

・「みどり豊かな文教都市」という言い方は、真っ赤なウソです。国立市の緑被率は多摩の中で下の方ということを市の職員から聞いています。農地が住宅地になったり、木がどんどん切られたりするのを見ている、緑被率はどんどん減っているはずですよ。

・「国立市の地域特性」が「みどり豊か」というなら、間違っています。さらに、「文教都市」は食育とはまったく関係ないことです。

・「食事の内容を充実させる」の充実とは具体的にどんな食事にするのですか。もちろん、給食は「充実」しているのでしょうか。家庭の食事は「充実」していないという指摘なのでは、勝手に決めつけないでください。

・「日本型食生活」とは何ですか。また、日本のどこにあるのですか。また、「食文化」とありますが、具体的にどんなものですか。さらに、何で「日本型食生活や行事食といった食文化を伝承して」いけないといけないのですか。普段なじんでいるものを食べてもよいし、他のものを食べてもよいのではないのでしょうか。そして、その中から「私の味、私の食事」があればよいのでは。一人一人の人が何を伝承しようが勝手にあり、行政の考える「食」を伝承する必要はまったくありません。

・国立で食についての「地域特性」とは何ですか。

・「給食を通じて地域の産業や生産者への理解促進を図ります」とありますが、「地域の産業」については他の教科で学びます。また、「生産者への理解促進」とは何なのでしょう。か。「つくってもらってありがとう」という気持ちをもたせるということではないですね。

・「手作り給食」を取り上げていますが、今までは「手作り」ではない部分が多く、「中食」であったということなのでは、具体的に何が手作りになるのですか。

・「伝統的食文化」とは「和食」とのことだそうですが、そうならそう書けばよいのでは。他のことも含んでいるように思います。その「和食」ですが、和食とは一体何のことを指しているのでしょうか。「地域の食文化」も何を言っているのかわかりません。「国立市の食文化」などあるのでしょうか。「郷土に伝わる料理」も何だかわかりません。国立の谷保地区発祥で、今も谷保の各家庭で食べられているものがあるのでしょうか。あれば具体的に書いてください。「国立地区」の市民には関係のないことですが・・・。

・「新しい日常」って何ですか。勝手に日常を作らないで下さい。

・偏った価値観やイデオロギーを押しつけるものが多くあります。特に、「食育基本法」などを利用した部分に見られますが、「感謝の念」とか「心を育む」は個人の信条への介入です。また、「国立市の地域性、独自性」とか「伝統文化」といった言葉についてはいろいろな捉え方があり、使わないでください。

(以下上記に関連するご意見を掲載)

・「食品の生産や流通から調理、食事までの過程を知ること」は大切だと思いますが、それは「食の大切さを知」ることとは別のことです。1つの価値観に無理矢理結びつけないでください。

・「感謝すること」を押しつけないでください。何に感謝しようが個人の自由です。

・「外食や中食」は望ましくないと思わないでください。しかたなく食べている方や、それを主体的に望んでいる人もいます。個人の嗜好の状況です。個人の食事内容への介入はしないでください。そして、テレビを見ていたら「ワタミの宅食」の宣伝で、「栄養もきちんとして安価」と言っていました。が、「選択する力を高め」とは、このような宣伝を疑えということなのかなと考えました。宣伝を安易に信じるなどというのは正しいと思いますが、企業の商品にケチをつけるようなことを市の方針と掲げてよいのかという心配もあります。この部分の記述はいいません。

・「食を楽しもう」ということ自体、子どもにとっても大きなお世話です。そして、「心を育む」はいいません。人の心に勝手に踏み込まないでください。

・「正しい食習慣や食事のマナーを身につけ」とありますが、「正しい食習慣や食事のマナー」とは何ですか。「正しくない食習慣や食事のマナー」があるようですが、人の食事について行政が「正しい」とか「正しくない」と判断できるのですか。

・「自然の恵みに感謝」とありますが、「感謝すること」は他人がとやかく言うことではありません。どうしてこんなことまで行政に言われなくてはならないのでしょうか。日本はい

いただいたご意見を参考に、多くの方に納得いただける表現、掲載内容を検討いたします。

		<p>つから「行政主権」になったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を「生きた教材」として自画自讃していますが、もうすこし謙虚にもものを見てはいかがでしょうか。食をテーマとして総合学習が行われたこともあります。食はあくまでテーマであり、学習の目標にはなっていません。その意味で学校給食を「教材」とするのは、この「ビジョン」をつくった方の思い込みであり、過大評価といえます。その結果、意味不明の「食育」の名の下で、これもできるあれもできるといった形で「生きた教材」が無理矢理使われ、偏った認識や親念を植え付けることになっています。学校給食を「食べる」ことに限定して「ビジョン」を作り替えてください。 ・「郷土に関心を寄せる心を育む」とありますが、郷土に関心を寄せるかどうかは個人の問題です。「育む」必要はありません。「心を育む」教育は洗脳です。 ・「感謝の気持ちを育むことができる機会を増やします」とありますが、どうして個人の心に平気で介入することを書くのでしょうか。「感謝の気持ち」は本人が感じるものであって、「育むことができる」とすれば、それは強制か洗脳によってです。そのようなことがなぜ分らないのでしょうか。 ・あれもこれもと職員の願望を広げ、それを市民に押しつけるのではなく、すべての子どもがおいしいと思える学校給食の実現という本来の職務に専念されることを求めます。 	
4		<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法をもとに書かれているようですが、この法自体一つの価値観にとらわれたものです。私自身は好きなものを食べることができればよいと考えており、食育の必要性は感じません。 ただ市で「食育」をし、「食育ビジョン」をつくるのなら、食育基本法の価値観から離れ、食について何を育てるのかを市全体で議論することが必要だと思います。 ・「食育基本法で努力義務となっている食育推進基本計画がないまま新給食センターの民間（PFI）委託を進めている」との批判を受けてとはいえ、学校給食に特化した食育ビジョンは全国的にも珍しく、先進的な試みであり高く評価したい。しかし、本食育ビジョンでは、「児童生徒」という用語が頻繁に出てくるように、その対象として市立小中学校の子どもが想定されている。国立市の人口6万6千人のうち、小中学校就学年齢の人口は5千数百人、市立小中学校就学者は4千5百人程度に過ぎない（他に市内私立小中学校に2千3百人が就学）。 2020年6月議会で採択された「国立市小中学校給食の更なる充実に向けての陳情」の陳情項目に「実効性のある『食育推進基本計画』の制定」とあり、農林水産省ウェブページでも国立市は「来年度作成予定」とされているが、本食育ビジョンは対象が狭く、食育推進基本計画とは言えない。 本ビジョン作成後速やかに、未就学児、市立小中学校以外の子ども、ハイティーン、大人や高齢者を含む、市民全体の食育推進基本計画（または「食のまちづくり推進基本計画」）づくりを、市民参加で進めてほしい。 	<p>市全体での食育に関する推進計画は、市長部局で現在検討中でございます。本ビジョンは、その推進計画に先んじて策定されるものですが、市全体の推進計画が策定された際には、そこで示された方針も意識し、本ビジョンの改定を検討しつつ、取り組みを進めてまいります。</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> ・総花的で、国立市の食育の特徴が見えてこない。一言でわかるキャッチコピー、または国立市の学校給食の「ウリ」を明示してほしい。例えば、いすみ市や匝瑳市のような「オーガニック（有機農産物）給食」とか、ユニバーサルサービスとして「全ての子どもの給食無償化」とか、なるべく既製品をなくした「手づくり給食」など。 	<p>ご指摘の通り、国立市の食育の特徴が伝わるような表現を検討いたします。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルから、単なる箱物としての給食センターを活用した食育ビジョンのように思える。学校給食における食育は配膳や学校・教室内でこそ行われるものであり、「学校給食センター」でなく「学校給食」事業の食育ビジョンとすべきではないか。 	<p>表題のタイトルにつきましては、内容とリンクした、多くの方にとってなじみやすいものとなるよう検討いたします。</p>
7		<ul style="list-style-type: none"> ・安全で、美味しい、楽しい学校給食の食育ビジョンとするためには、小中の保護者だけでなく、乳幼児施設や子ども食堂など、子どもの食に関わる市民に呼びかけ、課題を聞き出すことによって充実するものと思います。 	<p>様々な立場の方からご意見を賜りたいと考えておりますので、今後もホームページ等で食育ビジョンの周知をしていくなど、多くの方に関心を持っていただけるよう努めます。また、市長部局との連携も検討してまいります。</p>

はじめに			
8		<p>・学校給食の意義を記す部分だと思うが、そうになっていない。なぜ今まで守ってきた国立市の学校給食で大切にしてきたことを書かないのでしょうか。</p>	<p>ご指摘の通り、学校給食の意義や理念といったものを示した内容を冒頭部分に記載いたします。</p>
第1章			
9		<p>・食育を「生きる上での基本…」と書かれているが、はっきりと教育の基礎が学校給食であると明記してほしい。</p>	<p>本ビジョン作成の際には、食育基本法を参考といたしました。p1記載のとおり、食育基本法には、「食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。」とあり、教育委員会としてもこの考え方に賛同するものです。</p>
10	p1	<p>・新しい給食センターが市全体の食育の拠点となるのは初めて知りました。 ・現給食センターの老朽化により、新給食センター建設を進めていて、そこが市の食育の拠点となるとあるが、今、コロナなどの感染症の問題もある中、多くの市民を受け入れる施設にするのは、食中毒や感染症のリスクを高めるのではないかと、そもそも、「学校給食」のビジョンと関係がない。 ・この50年以上にわたって食中毒を出して来られなかった職員の皆さまの努力があるからこそ、そしてある程度入れる人を制限していたからできたのではないかと考えますので、誰でも市民に開いた施設のリスクはないのか、どうなのかという検証をしていただきたいです。</p>	<p>新しい給食センターは、試食会、見学会等で多くの市民の方に来場していただき、市の食育の拠点の一つとなることを目指しておりますが、来場者が増えることによる食中毒や感染症のリスクをしっかりと検証し、問題がないか確認したうえで試食会、見学会等を実施いたします。 新しい給食センターでは、今以上に一般来客エリアと調理従事者専用エリアが厳格に区別されているため、一定の汚染リスクの低下が見込めます。 このほかにも必要に応じ、本来の目的である安全・安心な給食提供が妨げられないよう十分な対策を行ってまいります。</p>
第2章			
11		<p>・子どもの標準体重児の割合が減少しているとのことですが、近年の変化と年齢別の資料をつけるべきだと思います。</p>	<p>資料の掲載につきまして、レイアウト、全体の読みやすさやボリューム感なども含め、検討させていただきます。</p>
12	p2(1)	<p>・野菜嫌いは給食で変えられる課題だと思うが、成人病に関しては、児童の標準体重の割合減少の次の文がいきなり成人男性では肥満傾向云々となっていて、対象のすり替えがある。これは栄養の問題だけではなく、飲酒や喫煙、運動不足など他の要因も大きい。もっと給食に関して問題を絞らなくてはただ問題を書いただけになる。</p>	<p>当ビジョンは、学校給食への取組を中心としつつも、食に関わる課題解決や食育の推進についても貢献していくことを目指し記載しております。 ご指摘については、今後の参考とさせていただきます。</p>

13	p2(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜が好きでない、あるいは、野菜を食べないのは小中学生に限らないのではないのでしょうか。 ・「幼少期から望ましい食べ物を選択することができる知識を身につけていく必要があります」とありますが、「知識」というより、野菜を食べるということなのでしょう。また、「野菜を選択する知識」は幼少期から身につけられるのでしょうか。 ・「医療費の負担の抑制のため」とありますが、医療費の負担抑制のために食事をしているわけではありません。給食センターは市の財政担当の下請けになったのですか。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
14	p2注釈	<ul style="list-style-type: none"> ・国立市栄養連絡会議ができてから16年たっていますが、そういう組織があることを知りませんでした。「国立市民の食育推進」を図ってきたようですが、国立市民の食生活にはどんな成果があったのですか。お聞かせ下さい。 	<p>保健、福祉、教育その他分野が連携することにより、情報共有することで、縦割りでなく、横断的な体制をつくることができています。</p>
15	p3(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の課題を上げ過ぎていて、家族の問題は給食と別の問題に考えるべきだと思います。後、コロナ問題がある中、学校でも給食の時間は黙って前を向いて食べるように指導されていると聞きました。食事のマナーを指導するのは誰でしょうか。日々の取り組みが重要だと思いますが、先生と言うことになるのでしょうか。 	<p>当ビジョンは、学校給食への取組を中心としつつも、食に関わる課題解決や食育の推進についても貢献していくことを目指しております。食事マナーの指導は、日々行われている先生の指導のほか、試食会、見学会、学校に訪問しての授業や講演を通じ栄養士からも指導ができると考えています。</p>
16		<ul style="list-style-type: none"> ・孤食が増えているといいますが、これも具体的に国立の子供たちの実態を調査しているなら数字で示すべきです。市民活動団体の連携で共食をすすめるとするのは、どんな団体が一覧を載せてください。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
17		<ul style="list-style-type: none"> ・「くにたち野菜」を絶賛していますが、それほどすばらしいものなのでしょうか。立川や国分寺の野菜でもいいのではないですか。 	<p>地産地消の推進は、輸送に伴う環境負荷の低減につながるなど国立市にとって大変重要なテーマであると考えております。栽培から口に入るまでを、直に観察確認することができ、食材の安心安全につながると考えております。給食を食べた子どもたちが、くにたちでどんな野菜が生産されているか知ることができ地域への理解が深まるなど、食育に一定の効果もあると考えております。</p>
18	p3(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の生産体験学習の充実が進められています」とありますが、10年前、20年前と比べて何が充実しているのですか。変わっていないように思いますが。また、学校での野菜の栽培などは行われなくなっていると聞いていますが。 	<p>ご指摘を参考に、充実という部分について、別の表現を検討いたします。</p>

19		<p>・ と言うことを書かれるなら、今までくにたちの学校給食で取り組まれてきたことを書くべき。外食や中食の選択能力の力を高めるとは、あまりに希望がなさすぎる。それが教育だろうか？ 恥ずかしい。自分でご飯を作れるようにするならわかりますが。</p>	<p>いままでの学校給食の取組は、第3章の3に、今後の新たに実施する取組みは第3章の4に記載しております。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
20		<p>・ 「農業体験の機会の充実」とは具体的に何をやるのですか。学校にはさまざまなものが持ち込まれ、アップアップの状態、やっただけで良いとされているのが現実です。現在の授業時間を削ってまでしてやることなのでしょうか。もし「充実」させたいと本気で考えているのなら、農業学校のように他の教科の時間を削ってでもやるべしと教育委員会で提案されてはどうでしょうか。そうでなければ、現在行われていることもわずかな時間であり、取り立てて書くようなことではありません。</p>	<p>「農業体験の機会の充実」の具体例は現時点ではお示しできませんが、学校カリキュラムの範囲内で、市長部局・市教委・学校と協議しながら、今後、検討していきたいと考えております。</p>
第3章 1			
21	p4	<p>・ 3つのねらいは子ども向けに書かれたものと伺いましたが、その下に書かれていることはとも子どもができるものとは考えられません。しかも、文の末尾が「目指します」となっていますが、国立の子ども達が「目指している」ということを勝手に宣言していることになり問題です。一方、市民に向けたものと考え、給食センターの職員は国立市民を「子ども」同然と理解しているということになります。どちらにしても大きなお世話であり、いりません。</p> <p>・ 子どもが「栄養バランスに配慮した主食・主菜・副菜をそろえた食生活を実践する」ことなどできるのでしょうか。</p> <p>・ 「維持することを目指します」とありますが、子どもが維持できるのでしょうか。歯を磨くという程度ではないですか。</p> <p>・ 「市民が地域で健康的に暮らしていけることを目指します」とありますが、この文の主語は「給食センター」となり、他のところと違います。ここは子ども向けに書かれたものではないのでしょうか。</p>	<p>・ 本ビジョンは、主に子どもを対象として作成されておりますが、取組み内容によっては可能な限り、市民全体の食育の推進にも貢献していきたいと考えております。ひいてはそれが、食を通じた、子どもの健康につながると考えております。</p> <p>また、本ビジョンは基本的には、給食センターの役割の範疇として目指すものを列挙している形式となります。</p>
22		<p>・ 3つのねらいが、あまりに曖昧でわかりにくい。「ねらい1 食の大切さを知ろう」の説明文が「食に関心を持ち…」で始まり、「ねらい3 食に関心を持つ」とあるように、ねらい1と3はほとんど重複する。「3つのねらい」は（3つという数にこだわらず）別の用語に変更し、それぞれの取組の「ねらい」への振り分けもやり直した方がよいのではないかと。</p>	<p>ねらい1と3で重複する箇所を中心に表現を見直し、より分かりやすい説明文を検討いたします。</p>

23	p 5	<p>・ロシアによるウクライナ侵略、中国の香港での民主化弾圧、ミャンマーでの軍事政権による反対派市民への死刑執行などを見ると、人間は本当に独善的で残酷な生き物だと思わざるをえません。これは一権力者だけの問題ではなく、それを支える国民が一部にいるからできることです。そのような国・人が集まっている国連が決めた SDGsの目標は、理想的には立派なものだと思いますが、国際社会が本気で「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を考えているとは思えません。日本政府も同じです。国内の企業も自らの企業イメージを上げるために、経済的な利益を損なわない範囲で SDGsを利用してはいるだけではないでしょうか。この目標を是としたとしても、温暖化や、差別、貧困、飢餓などという掲げられた目標を実現するために本気で対策を講じていくという姿勢があるとは思えないということです。国立市においても然りです。ユニセフの広告ではないですが、地球上に貧困や飢餓が存在する中で、オリンピックという無駄な消費をされていてよいのかという議論はなかったのでしょうか。そして、今でも「レガシー」とかいつて無駄な金を学校にばらまいています。そのとき、SDGsは忘れ去られているのでしょうか。ご都合主義だと思わざるをえません。一口で言って、SDGsのロゴを載せるのは〈クサイ〉です。食品ロスを減らすことは結構ですが、「食育の推進が SDGsの目標達成に貢献している」(6-7行目)とは思えませんし、計画の中にロゴを載せる必要はありません。</p> <p>・説明の内容が薄いので、カラフルなアイコンでごまかしているようにも見えてしまう。もう少しきちんと説明してほしい。p. 6以降の各取組にゴールのアイコンを配するのはよいが、それで思考停止(やった気になる)になってはいないか。17のゴール(&短く省略された文言)はカテゴリーに過ぎず、課題解決に向けて何をすべきかを説明する169のターゲットとの関連性を記載してほしい。(SDGsターゲットにも、公式アイコンと日本語コピーがある。)</p> <p>・SDGsは社会的な課題と関連する重要な開発目標ではありますが、ともすればそれと関係づけられれば何か先端的な意見だというような流れがあります。ここは地方自治体としての国立市の食育ビジョンですから、SDGsを持ち出さなくても、あくまでこの地域性に沿ったもので書き込んでいただきたいです。これまでのさまざまな実践は給食センターの職員、並びに市民によって築き上げられ、一定の支持を得ているのではないのでしょうか。その点を書き込んで、PFI給食になっても私たちはこれまでの実践と、これからの課題を改善していくと書いていただきたいです。</p>	<p>世界的な取り組みであるSDGsについて、給食センターとしても貢献していきたいとの思いから掲載いたしました。</p> <p>説明文の充実については、全体を通しての読みやすさなども考慮しながら検討してまいります。</p> <p>なお、アイコンについては、狭義な意味で、国立市の現状を勘案して関連付けているものではなく、給食センターの願いとして、栄養や食品ロスなどの関連事業をきっかけに、子どもたちにそれぞれのアイコンについて、「知ってほしい」・「調べてほしい」・「勉強してほしい」、そして、それぞれのアイコンの意味合いが、世界で生きる一人の人間として大事なことなんだと認識してほしいという思いから記載しております。</p>
----	-----	--	--

24		<p>・子どもの7人に一人が貧困状態にあり、国立市も例外ではなく(給食が唯一まともな食事)という子がいる)、食育に関する施策(ねらい)の柱にしてもよい課題であるのに、「子どもの貧困と食」について一切言及されていない。</p> <p>具体的な食育の取組としても、「学校給食の完全無償化」までは無理であっても、「学校給食が無償となる就学援助制度の拡充(対象の拡大緩和、制度申請の推奨)」「公費による給食費補助」など記載してはどうか。</p>	<p>「子どもの貧困と食」「学校給食が無償となる就学援助制度の拡充(対象の拡大緩和、制度申請の推奨)」「公費による給食費補助」については、学校給食における食育という概念よりは、給食の在り方そのものの部分であることも鑑みながら今後の参考としてまいります。</p>
25	3章3全体	<p>・2021年6月議会で全会一致で可決した補正予算の附帯決議では、「学校給食の未来を見据え、その在り方については、子供たちや保護者の意見を反映した新しい方式を取り入れる可能性を考慮し、丁寧な検討を今から行うこと」を求めている。「新しい方式」とはセンター方式以外の検討も念頭に入れたものであるが、「食育ビジョン」と謳うからには、「新しい方式の検討」が食育の取組項目に入っているべきではないか。</p>	<p>付帯決議の内容は認識しており、今後、新たな給食センターが稼働を始め、一定期間運営状況を見極めた上で、議論していく必要はあると考えています。ご指摘の内容は今後の参考とさせていただきます。</p>

26		<p>・「地産地消の推進」取組はあるが、「食の安全の確保」取組が明記されていない。現在でも食品添加物、遺伝子組換及び農薬の使用を極力抑えた食材調達に努めているのだから、きちんとビジョンに明記し、調理以降の行程がPFI委託されても、しっかり徹底するようにしてほしい。ビジョンなのだから、さらに進めて、今治市やいすみ市、武蔵野市のように、オーガニック（有機栽培）給食の取組をしっかりと打ち出してはどうか。</p>	<p>ご指摘の「食の安全の確保」取組について、現在も「国立市学校給食用物資納入基準書」に記載されており、ホームページにおいても公開されております。このことも鑑み、掲載について検討してまいります。</p>
27		<p>・学校給食における食育の現場は、給食センターよりも教室にあるのに、学校での食育の取組についてほとんど言及されていない。食育ビジョンなのだから、きちんと位置付けて明記すべきではないか。</p>	<p>学校給食センターの作成する食育ビジョンという位置づけから、本ビジョンには、給食センターの取組を中心に市の取組を記載しております。</p>
28	p 6 前文	<p>・「学校給食は、…児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである」というのは本当ですか。そう願っているのと、「ある」と断定するのは違います。ここ 20年間の学校給食によって、30歳前後の方々は「正しい理解と適切な判断力」を養えたといえるのでしょうか。大言壮語はやめましょう。</p>	<p>ご指摘の部分は、学校給食法第一条に明記されている内容です。国立市の学校給食がこのような重要な役割を果たせるものとなるよう、努めてまいります。</p>
29		<p>・「市民の皆様を試食会や施設見学会に積極的に受け入れ、食の大切さを伝えていく必要があります」とあり、新給食センターの宣言文のようですが、「食の大切さを伝えて」欲しいと考えている市民は何人いるのでしょうか。ノスタルジーで昔の給食を食べてみたい人はいるかもしれませんが、それは食育とは関係ないことです。不要な文章です。</p>	<p>ご指摘の箇所については、市民全体の食育の推進が、市民の方の健康、ひいては子どもの健康にもつながると考え、掲載いたしました。</p>
30	p 6 (1)	<p>・「ランチルームで栄養士や調理員と一緒に給食を食べることで、給食をより身近に感じることができるようになります」とありますが、本当ですか。栄養士や調理員と食べないと給食は身近に感じられないということになりますが、年1、2回のイベントではなく、各校方式にして、毎日調理を見られるようにしてはどうでしょうか。栄養士や調理員の方への苦勞を知り、感謝するというようなことを考えているようにも思えますし、何を目的にしたことなのか分かりません。</p> <p>・現在の給食センターで市民にも試食会を！という動きは評価します。施設見学会や試食会は必要ですが、最もすすめるべきは、日常的な給食の時間をしっかり取ることや、教師との会話が大切です。いまだに各校にランチルームを設けていないのは遅れています。</p>	<p>献立作成や調理を行う職員と直接会い、作り手の存在を感じることで、給食を身近に感じ、それが日々の食事への感謝につながると考えております。</p> <p>自校方式やランチルームなどの新しい方式についてのご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
31	p 6 (2)	<p>・意見交換会で「さくら」への給食の常時提供の話が出ましたが、やる気になればできることであり、市長も関わってでき「食育ビジョン」なのですから、「やる」と決めればよいだけです。</p>	<p>給食センターの自主事業ではないため判断できないところではございますが、いただいたご意見は、教育支援室運営事業担当部署と情報共有いたします。</p>
32	p 7 (3)	<p>・今、給食はより安全な食材へのシフトが大きな流れです。その一つが有機農産物の給食への導入です。～(中略)～今すぐに国立市の給食が転換していくのは無理であっても、そのような方向性をしっかりビジョンの中に書き込んでいただきたいです。</p>	<p>有機農産物については、費用面などから現時点で全面的な導入をすることは難しいですが、今後、保護者のみなさまの要望も踏まえ、検討してまいります。</p>

33	p 7 (3)	<p>・国立産が安全とはいえません。とにかく国立産を使うということなのでしょうが、農業振興の観点からすれば、市場として学校給食は大きな意味があるとは思いますが、食べる方からすれば、無理して国立産を使う必要は感じません。立川でも国分寺でも府中でも同じ程度に新鮮な食材はあります。かつて、ホウレンソウに農薬をまいている畑を谷保で見ました。あれ以来、国立産の野菜を優先する気は失せています。天神米にしても、名前が違うだけで他でも作られているお米でしょうし、学校給食で国立産としてありがたいものではないと思います。</p>	<p>国立産食材の使用は、地産地消の観点からも意義があると考えております。市民の見方によっては、直に、栽培から実際に市民の口に入るまでを観察、確認することができ、新鮮で安心安全な食材になり得ると考えております。安全性に関しては、国立産であるかどうかを問わず、すべての食材に対し十分なチェックを行い、安全安心な給食の提供に努めていきます。</p>
34		<p>・食材について、「子どもの基本条例」をつくろうとしていますが、食育についても子どもの権利の視点は欠かせません。子どもは大人以上に安全な食物を享受する権利があるからです。給食食材について、限られた給食費とありますが、例えば食材の値上がりで、今までのような食材が使えない場合、ランクを下げてもいいものでしょうか。現状では安全な食べ物にはお金がかかります。給食費に補填しても、質の高い食材を使用すべきです。国立産の野菜をもっと多く使用したいところですが、農家により安全な野菜を提供してもらうには、それなりの保障と安全を保証する農薬使用などの公開が必要と思います。</p>	<p>給食費については、給食食材そのものの「質・量」の問題にも直結してまいりますので、社会動向、保護者の皆様のご意見などを総合的に考慮し、都度、検討してまいります。農薬使用の公開についてのご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
35		<p>・「将来を考えた」とは、やけに先の話ですね。現時点では、「安全な食材の使用」ということではないでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
36	p 7 (4)	<p>・朝食を食べたくても食べられない人に対して、きちんと食べられるようにすることは大事だと思いますが、食べなくてもよい人や食べたくない人にとっては、「早寝早起き朝ごはん」運動は圧力であり、学校に行きたくなくなる原因にもなるものです。このような運動はすぐにやめて下さい。 ・朝ごはんの大切さを強調するのはいいが、だったら学校給食で朝ごはんを提供すべき。また、既成の運動を推進するのは主体性がなさすぎる。</p>	<p>「早寝早起き朝ごはん」国民運動は文部科学省が推進しているものとなりますが、普及・啓発活動の際には、様々な方の考えを尊重し、ある考えを一方的に強制するような形とならないよう、十分な配慮を行ってまいります。</p>
37		<p>・各家庭にあった朝食の提案は誰がするのか？現場の負担が増えるのではないかな？</p>	<p>栄養士が主体となって実施します。本来業務が疎かにならないよう、業務分担、実施時期を十分に検討し実施します。</p>

38	p 7 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・よく噛むことの普及とあるが、そもそも給食の食べる時間が短いことが問題。それを解決しなくてはちゃんと「噛むこと」は難しい。 	<p>ご指摘のとおり、給食時間の短さがよく噛むことの普及を妨げる部分はあろうかと思えます。給食時間の短さが問題という部分については、各学校とも時間の確保に向けて、創意工夫をしていると認識しておりますが、ご意見として拝聴させていただき、教育指導支援課とも情報共有いたします。</p>
39	p 7 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文2段落目の給食センター設置の測定機器による毎給食の放射能検査は、本年1学期で終了している。機器は購入したもので、今後は、消費者行政部門や環境部門と連携して、市民持ち込み食材の放射能検査（小金井市のように市民と連携した事業が望ましい）として積極的に広報して実施してはどうか。放射能検査だけでなく残留農薬の検査についても行っているはずなので、きちんと記載しておくべきではないか。 	<p>ご指摘のとおり、毎食の放射能検査についての記載は削除し、毎月の食材検査についての説明に差し替え致します。今後の機器の活用については、市として購入した機器であり、いつ何時でも使用可能な状態を保つべく保守点検も引き続き、しっかり行いながら市長局での活用も含め今後の活用法などを検討して参ります。</p>
40		<ul style="list-style-type: none"> ・新センターになった場合の「放射能検査」はどこが行うのか？義務付けされているか知りたいです。 	<p>新センター移行後につきましても、外部機関による精度を上げた放射能検査を市の契約のもとで実施していきます。 なお、放射能検査の法律上の義務付けはございません。</p>
41	p 8 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「国立らしい魅力ある」食品は、ほうれんそうと里芋を使ったものだけですか。ほうれんそうと里芋が「国立らしい」とは思えません。他のところでも作られていると思います。 ・くにたちの学校給食は独自のメニューや独自の調味料を栄養士、調理の皆さんは取り組まれてきたと思うので、ちゃんと書いてほしい。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。なお、調味料については「国立市学校給食用物資納入基準書」に記載しているところでございます。</p>
42		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの嗜好の偏りはあって当然です。食べ物の好き嫌いは大人にもあります。子どものときは嫌いでも、大きくなって好きになることもあるでしょう。「苦手を克服」とありますが、克服する必要があるのでしょうか。嫌いなものを食べさせられて、ますます嫌いになることもあります。子どもの好きだけに合わせる必要はないと思いますが、「嗜好の偏り」が悪いことのように考えるのは問題です。 	<p>嗜好の偏りや大人になってからの克服を理解したうえで、苦手な食材でも献立や調理によって、子どものときから克服できる場合があると考えており、そういった効果を期待した取り組みとして記載しました。 子どもに苦手なものを押し付けるような形にならないよう十分に配慮いたします。</p>
43		<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭で触れる機会が減りつつある」とありますが、勝手に決めつけないでください。 	<p>ご指摘の箇所は、別の表現を検討いたします。</p>

44	p 8 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・食の豊かさは行事食や季節のメニューだけではないはず。食の豊かさとは何か、深く考えて書いていただきたい。 	<p>ご指摘について。今後の参考とさせていただきます。</p>
45	p 8 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー食については、新給食センターの調理を外注するときのメリットとして大きく取り上げていたと思います。「可能な限り」ではなく、全ての子に対応するべきです。また、16ページでは「シダックスに期待」としてありますが、期待するものではなく、市の方針を指示し、提供させればよいことです。 ・アレルギー食に関しては、ちゃんと何をいつまでに提供するという工程表を出してほしい。この素案だけでは簡単すぎる。芦屋市では39ページに及ぶアレルギー食の対応資料が出されている。これぐらいして初めてアレルギーに対応していると言えるのではないか。新給食センターの目玉事業のはずだと思ってしまうのでしっかり取り組んでいただきたい。 	<p>現在の給食センターではアレルギー対応食を作っていないことが、子どもたちの命に係わる問題であるということ踏まえ、乳、卵から慎重に始め、一定期間状況や実績を鑑みた結果、良好な運営ができていますと判断した場合は、国立市の児童生徒で比較的对象者の多いエビ・カニのアレルゲンへの対応を導入することを想定しています。導入後の経過を踏まえて随時対応を検討していくことになるため、現時点で詳細な工程表を作成することは難しいと考えています。</p>
46	p 8 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り給食の充実には期待したいが、新センターでそのための人材と人数をどう考えているか、それは経費にどう換算しているか具体的に書くべきです。 	<p>手作り給食については、「国立市立学校給食センター整備運営事業要求水準書」にも記載されており、具体的な想定献立も調理委託業者に提案しております。手作り給食充実のための人材、人数については、調理委託事業者とも協議の上検討してまいります。</p>
47	p 9 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食は「生きた教材」として新センターの調理釜や調理器具で模擬調理体験も食育に効果的とありますが、あまり納得できません。それは、食育ではなく職育ではないでしょうか。食育であれば、学校内の調理施設で子どもたちが考える給食献立で食事を作ってみるなど、子どもの発想と、自分で作ってみる体験が楽しく効果的と考えます。 ・施設見学を何回するのかわかりませんが、少ない回数で「給食を肌で感じるができる」のでしょうか。調理や食事を肌で感じるには自分で作るのが一番です。それがここでいう「食育」にもいちばん合致するのではないですか。願望の入った観念だけの言い方はやめて下さい。 	<p>学校施設を利用した食育事業についても実施の余地はあると考えており、将来的には栄養士の訪問授業の実施を検討中です。いただいたご意見も参考に、家庭科の授業との兼ね合いや学校の受け入れ態勢なども考慮しつつ実施を検討いたします。</p>
48		<ul style="list-style-type: none"> ・「幅広い世代の方に試食の機会を」とあるが、現在は試食は国立市立小中学校に在籍する児童生徒の関係者、保育・幼稚園児の保護者に限定されている。全世代に、各層市民に拡大するということか？（拡大を歓迎したい） 	<p>児童生徒関係者や未就学児をお持ちのご家庭の関係者の優先を前提としながら、今後は可能な限り、老若男女問わず拡大してまいります。</p>

49	p 9 (6)	<p>・「共食」の重要性は分かりますが、そうできない家庭もあり、これが正しいのだからそうしろというのは酷です。子どもと一緒に食べたくないという親の方が少ないのではないのでしょうか。孤食に、そうせざるをえない家庭にこれが正しいのだからと学校などで指導するのは家庭や子ども、また現場の先生にも大きな負担を強いることになると思います。もっと根本的な解決が必要な問題だと思います。</p>	<p>様々な理由から共食の形をとれていない家庭があるかと思いますが、共食の重要性、メリットを発信することは、孤食に陥る子どもを減らすために給食センターができる取り組みの一つだと考えます。取組の際には、各家庭や先生の負担とならないよう十分に配慮いたします。</p>
50	p 9 (7)	<p>・小学6年生と中学3年生だけの、それも年何回かだけの献立のようですが、それだけで「児童生徒が希望する学校給食」というのは大言壮語です。</p>	<p>献立作成委員会等から、児童の希望を把握し、子どもたちが好んで食べてくれるような献立を日々目指しておりますが、児童に直接アンケートを行っての希望献立の回数を増やすのは、限られた給食費との兼ね合いもあり、現状では難しい部分もございます。いただいたご意見を参考に、多くの方に納得いただける表現を検討いたします。</p>
51	p 10 (8)	<p>・給食センターの職員には考えられない給食があってもいいですが、それで「地域を身近に感じ」るわけではありません。飛躍しすぎた話です。 ・「国立市の魅力に触れ、市内企業等に関わる誰もが活躍できる社会の実現と、活気あふれるまちづくりを目指します」とありますが、「国立市の魅力」って何ですか。魅力は市民が感じるもので、行政が勝手に決めつけるものではありません。また、市内のレストランと「エコール辻」のたった2つの協力を得ただけで、「市内企業等に関わる誰もが活躍できる社会の実現」と言えるのですか。「誰もが」なんて給食センターの力では絶対に無理です。さらに、「活気あふれるまちづくりを目指」すようですが、給食センターでそんなことができるのですか。一人一人感じる「活気」は違います。願望・妄想のレベルの話です。自分たちの力を直視するべきです。思い上がった内容ですし、市民は給食センターにそんなことを期待していません。 ・「市内企業等に関わる誰もが活用できる社会の実現」という意味がよくわからない。「市民との協働」なく「企業等とのコラボ」が前面に出てくることには違和感を感じる。 ・食育のビジョンに入れる必要はない。必要な時にイベントとしてやればよい。 「学校給食でも国立市の魅力に触れ、市内企業等に関わる誰もが活躍できる社会の実現と、活気あふれるまちづくりを目指します。」→食育に関係ない。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、多くの方に納得いただける表現を検討いたします。</p>
52		<p>・「国立にしかない学校給食」とは何でしょうか。ほうれんそうと里芋ですか。これらは他市にもあるのではないですか。わざわざ「国立にしかない学校給食」を提供する必要もないと思います。普段食べている普通の食事でのよいのだと思います。</p>	<p>地産地消の観点からも国立市の食材を使った、国立独自の給食を提供することは意義あることと考えております。感謝の気持ちを強制するものではなく、作り手の存在を感じてもらうことで、自然と感謝の念を引き出し、その気づきが子どもにとって意義あるものになると考えております。</p>

53	p 11 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「地元の安心安全な農産物」とありますが、地元産がすべて安心安全とは限りません。残留農薬などはチェックされていると思いますが、無農薬とか有機肥料しか使わないという条件が必要です。 ・「国立市産農産物に関する情報提供」とありますが、誰がそんなことを期待しているのでしょうか。情報提供なら、国立市に限らず食材についての情報提供をすればよいのでは。農業生産者からの要求でもあったのでしょうか。「国立至上主義」のようですね。グローバルな時代になっているのに、了見が狭いと言わざるを得ません。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
54		<ul style="list-style-type: none"> ・地場産物という地元自治体産物を考えがちだが、面積も小さく、住宅都市で耕作地も少なく農業が盛んでない国立市産にばかりこだわるべきではない。地場産物として「国立産・東京産」を挙げているのは妥当だが、「国立市産・多摩産＞東京産＞国産」と地産地消の優先順位を明確にして、目標を立てて食材調達してはどうか。 ・なぜ「地産地消」が大事なのか、の説明がなく、「食の大切さを知り、自然の恵みに感謝することを学ぶ」との情緒的表現に留まっている。単に地場産業の振興だけを考えているようにも読めてしまう。「地産地消」は、食料自給の観点のみならず、国際的な環境の持続可能性の観点からも重要である。 現在でも国立市の給食食材は国産を原則としているが、実際には遠隔地や海外産の食材も使っている。エコロジカル・フットプリント（人間活動が地球環境に与える負荷の大きさを測る指標）の観点からの地産地消の意義を説明し、多少値段が高くても地域の安全な食材を使う（場合によっては公費を一部投入する）ことを記述してはどうか。 ・地産地消の推進はとて面白いと思いますが、有機食材の推進も入れていただきたいです。今世界的にも日本でもその流れが来ていると思います。 	<p>地場産物使用の優先順位、地産地消の重要性の説明については、掲載場所及び掲載内容を検討いたします。有機農産物については、限られた給食費の中で、費用面などから現時点で全面的な導入をすることは難しいですが、今後、保護者のみなさまの要望も踏まえ、推進を検討してまいります。なお、公費負担については、本ビジョンでは踏み込んで記述することは出来かねます。</p>
55	p 12 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・残菜調査をクラス単位で行うとのことですが、これによって、なぜ「個別の給食指導」ができるのかわかりません。そして、その個別指導の内容は一体どんなものなのでしょうか。「これが残っているから食べろ」とか、食材の効能を説教するということになれば、残菜は減りません。 ・「食品ロスの削減に対する意識を高め、実践に結びつけます。社会的課題の解決に貢献できる食育を推進し、持続可能な社会を目指します」とありますが、主語は誰ですか。給食センターの職員ということなら「どうぞ」となりますが、「社会的課題の解決に貢献できる食育」とは何でしょうか。「貢献」という言葉で逃げているのでしょうか、食育で社会的課題が解決できるとは思えません。願望なら記載は不要です。 	<p>現在、学校ごとに残菜集計している中で、学校により残菜率の違いが見られています。クラス単位で残菜調査を行うことで、クラスごとの実態を把握し、課題解決につなげたいと考えています。個別指導とは、栄養士による児童生徒への声かけや準備片付け等の指導を想定しています。上記の取組などを通じ、給食センターが主体となつて、食品ロスの削減に対する意識を高め、実践に結びつけること、社会的課題の解決に貢献できる食育を推進し、持続可能な社会を目指すことに取り組んでまいります。</p>

56		<p>・食品ロスにつながる云々…ですが、残菜が出る1番の原因は給食の食べる時間の短さだという調査結果があります。確かに私たちがPTAで食べる時間の調査をしていた時も中学校では、5分10分で食べなければいけないという有り様でした。これを改善することが重要だと思います。</p>	<p>確かに、給食時間の短さが残菜が出る要因の一つとなっている部分はあろうかと思えます。 ただ、実際に残菜の多い学校にヒアリングした際には、その学校自体、現実を受け止め対策を試行錯誤しており、しっかりと給食時間をとるようにしていると聞いております。 給食時間の改善が重要という部分は、ご意見として拝聴させていただき、教育指導支援課とも情報共有いたします。</p>
57	p 12(5)	<p>・デジタルコンテンツを作るのは勝手ですが、誰が見るのでしょうか。子どもに見せるために作るのかもしれませんが、それをじっくり見る時間が子どもにあるようには思えません。給食のレシピをわざわざ見る人は何人いるのでしょうか。時代に迎合して無駄な税金を使うのではなく、本業に全力を傾けられることを願います。 ・「動画配信」やら「デジタル化」やら、やたら「ICT活用」「デジタルコンテンツ」ばかり強調しているのは気になる。ツールにばかりこだわると、お金ばかりかけて自己満足しかねない。むしろコンテンツの充実に力を入れるべきだ。</p>	<p>デジタルコンテンツ作成に当たっては、多くの方に見ていただくために、見やすさや発信の仕方も十分に工夫し、実施いたします。 コンテンツ作成後の利用状況などもしっかりと把握し、その都度内容や発信方法の改善を図ります。</p>
58		<p>・残菜の堆肥化は結構ですが、学校に畑などあるのですか。あっても、使われていないのが現実ではないですか。</p>	<p>学校に堆肥を提供する際は、学校での需要を確認いたします。 因みに、過去の経過として校庭などの花壇の土壌改良や堆肥として複数校で利用している実績がございます。</p>
59	p 13(6)	<p>・「くにたち野菜栽培農家へ堆肥の提供」とありますが、「くにたち野菜栽培農家」という特定された農家があるのですか。くにたち野菜を作っていない農家には堆肥は提供しないのですか。ケチですね。</p>	<p>「くにたち野菜栽培農家」は、市内で野菜を栽培している農家を示すもので、一般的な表現を検討します。 給食センターとしては、地域内循環型社会を目指すべく、地場野菜生産農家→給食食材→残菜→堆肥→地場野菜生産農家のサイクルによって、より安価で新鮮であり安心安全な野菜の使用を目指しております。</p>

60		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食から循環型社会を発信します」とありますが、大きく出ましたね。みんなが全部食べれば残菜がなくなりますが、そうすると循環にはなりませんので、残菜が前提ということですね。無駄を前提にすることが循環型社会をつくるということになります。矛盾していませんか。 	<p>残菜がゼロになれば、当然堆肥化は実施できませんので、あくまでも残菜があった場合に限って実施できる取組ということになります。</p> <p>しかし現実的には、残菜がゼロとはなりません。調理段階における残菜も発生しますし、提供した給食の残菜がゼロになるということは、児童生徒に対して、十分な量に達していない可能性が大きくなると考えてございます。</p>
61	p 13(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビン牛乳だから「安心とおいしさを感じることができる」わけではありません。ここでも「循環型社会」が出てきますが、無理矢理結びつけるのはやめましょう。 ・低温殺菌牛乳について、導入の時にPTAでは何度も学習会を開きました。そこで分かったことは、低温殺菌牛乳でなければカルシウムを摂取できないということです。そういうことも書いていただきたいです。そして、食の豊かさというのであれば、和食の時には牛乳ではなくお茶にして、カルシウムは小魚や野菜から摂るということも考えてはいかがでしょうか。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
第3章 4			
62	第3章4全体	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館でも男性の料理教室やしょうがいしゃ青年室で料理を実施しており、社会教育、公民館事業との連携が考えられるのではないかと。 ・市が検討している長期休暇中の学童保育所への食事提供、既に試行している教育支援室における給食実施を記載すべきではないかと。 	<p>いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます、各関連部署とも情報共有してまいります。</p>
63	p 14前文	<ul style="list-style-type: none"> ・はやりの「連携」をしないといけないようですが、無理矢理の内容もあります。本当に将来にわたってできるのでしょうか。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
64	p 14(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい給食センターの会議室等を利用し実施することで、周辺にお住まいの方の利便性の向上を図ります」というが、それほど利用されるとは思えない。市内には調理室を備えた施設や学校が各地にあるのだから、むしろ出前で市内のあちこちに出て行くことが大事ではないかと。 	<p>市民の方の新しい給食センター会議室の利用頻度がどれほどになるか、予測は難しいですが、利用できる会議室の選択肢が増えることは、市民の皆様にとってメリットになると考えております。</p> <p>出前での事業につきましては、市民の皆様のご要望を踏まえ積極的な実施を検討してまいります。</p>
65	p 14(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「育児に伴う食に関する負担軽減」とありますが、子どもを育てる以上、親としての負担はしかたないのでは。楽を求め人を後押しするのもよいですが、ここで書くことではありません。負担軽減を考えるなら、現役の給食センター運営審議会委員の方が夏休みの昼食は大変だとおっしゃっていたので、夏休み中も給食を継続したり、学童に弁当を届けたりすることも考えられます。保護者からは大喜びされますよ。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
66	p 15(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・笑ってしまいました。レシピをごみ減量課職員が作るとしていますが、ごみ減量課ではやれると言っているのですか。本来の仕事に専念した方がよいのでは。 	<p>食べきり応援レシピですが、現在市役所ホームページのごみ減量課のページにて、公開されております。</p>

67	p 15 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・「くにたち野菜を使った給食のレシピ集」とありますが、くにたち以外の野菜では使えないとしたら、誰が見るのでしょうか。 ・「地産地消の推進」は給食センターの仕事なのですか。 	<p>「くにたち野菜を使った給食のレシピ集」は、単に国立で採れる野菜を使ったメニューのことです。地産地消の推進についても、給食センターとして貢献できる部分があれば、可能な限り貢献したいと考えております。</p>
68	p 15 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・「年間を通じた稲作体験学習会」とありますが、稲作体験は年2日だと思いますが、それでも「年間を通じた」となるのですか。 	<p>いただいたご意見を参考に、多くの方に納得いただける内容を検討いたします。</p>
69	p 15 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなところのものを食べるのはよいですが、わざわざルッカ市と北秋田市を取り上げる必要はありません。「都市間交流」といっても、市のお偉いさんが主にやっているだけで、多くの市民には関係ないことです。2つの市の「魅力」って何ですか。わざわざそれを食べると「多様な食文化」を学べるのでしょうか。「食文化」って簡単に身につくものなのですね。この項目はとってつけたような内容です。別の市の食事でもよいことです。 	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
70	p 16 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の計画に「シダックス」という個別の企業が載るのはおかしいことですか。将来も「シダックス」と関係をもつということが決まっているということなのではないでしょうか。 ・調理など関連事業者との公民連携による食育の推進は重要だとは思いますが、食育ビジョンに特定企業名を打ち出すのには、違和感がある。例示されているのが「保護者対象のアレルギー対応食講習会」だけというのも、今ひとつピンとこない。 ・ビジョンの中に企業名を入れることに違和感がある。 「期待されます」「提案されています」等、不確実な表現には、市の主体性が感じられない。 ・アレルギー食への対応は、シダックスへの「期待」ではなく、やれる前提で契約したはずで、後戻りはしないでください。市で作った方針を実施させればよいだけです。いちいちシダックスからの提案による「協議」ではなく、市の方針を作り、実施させるべきです。方針は市で作れるのですよね。 	<p>いただいたご意見を参考に、多くの方に納得いただける内容を検討いたします。</p> <p>アレルギー食への対応について、現在の給食センターではアレルギー対応食を作っていなかったこと、子どもたちの命に係わる問題であるということ踏まえ、乳、卵から慎重に始め、一定期間状況や実績を鑑みた結果、良好な運営ができていくと判断した場合は、国立市の児童生徒で比較的对象者の多いエビ・カニのアレルゲンへの対応を導入することを想定しています。その際の経過も踏まえて対応を検討していくことになるため、現時点では、対応を明確に記載することができておりません。</p>
71		<ul style="list-style-type: none"> ・食育で委託業者のシダックスと連携をとありますが、以前説明会でシダックスの担当者の方は電子レンジでの調理法を教えることや大窯を見せることが食育と言われていましたが、それは食育ではないと思います。それが食育であると言われるならば、連携は意味がない、むしろよくないと考えます。 	<p>「国立市立学校給食センター整備運営事業要求水準書」において、調理委託事業者に対し、食育の推進のための積極的な事業提案をするよう記載しております。提案事業については、市のほうでも必要性や効果を検討し、両者での意見交換を通じて、より質の高い事業ができるよう協力体制を敷いてまいります。</p>

第4章

72		<p>・いただいたプリントと、ホームページ掲載のものとは違うようですが、このような改定がパブコメの最中で行われるのは問題です。他のところでも加除訂正が行われているとしたら、教育委員会定例会に出した意味はありません。</p>	<p>p17の内容に関しましては、新しい学校給食センターの愛称と、その由来が記載されています。この内容は、6月の教育定例会の際にお配りした食育ビジョンには掲載されておりましたが、定例会の場において、今後愛称を決定し記載する旨ご説明したうえで、記載したものとなります。</p>
73	p17	<p>・「愛称」を決めたようですが、説教くさい名称ですね。そして、「老若男女問わず、誰でも気軽に来れる、楽しんでいただけるような施設」と考えているのなら、市の中央部に建設すればよかったのではないですか。国立の北や東からわざわざ矢川の方までいくことはないと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、新給食センターの場所は、駅からも遠くアクセスが良いとは言えませんが、国立市内で、給食センターが建設可能な地域かつ市が活用可能な土地は限られてきます。そういった中で今回の建設地決定に至りました。</p>
74		<p>・新たな給食センターの愛称を「カムカムキッチン」とするとありますが、「噛む」ことの大切さを言われるのであれば、尚更、今現状の給食時間の食べる時間の短さを改善すべきだと思います。</p>	<p>給食時間の短さを改善すべきという点については、各学校とも時間の確保に向けて、創意工夫をしていると認識しておりますが、ご意見として拝聴させていただき、教育指導支援課とも情報共有いたします。</p>
<p>その他</p>			
75	その他	<p>9ページ7行目 「誰もが不自由なく利用できるユニバーサルデザインに配慮された施設」の文言に違和感を覚えます。下記問題を内包する当施設の姿を市民に正確に伝えてほしい。市民の税金でつくるのでから。 ①そもそも現敷地は、その選定に瑕疵があると思います。 ・3メートルの浸水想定地域は「市全体の食育の拠点たる」市の重要公共施設の敷地に適当とは思えません。 ・給食センターは国立市では準工業地帯にしか建てられない（国立市立学校給食センター整備基本計画2016）わけではありません。他の用途地域にも建築可能です。 ・前記整備基本計画での敷地は、長方形で4,500㎡を予定していますが、現敷地は台形で3,800㎡。 敷地が狭いので駐車場は地下になった（近隣説明会で設計者）とのこと。 ②3メートルの浸水想定地域に建つ学校給食センターの、浸水対策が十分だととても思えません。 ・浸水時、真っ先に汚泥水に埋まる地下駐車場（含む駐輪場）に、地上階への連絡階段なしの理由はなにか？ 老若男女問わず駐車場利用者に、日常的にも車路を昇り降りさせるのか？ ・そもそも止水高さを1メートルに設定した理由はなにか。</p>	<p>本ビジョンは、国立市の給食センターの食育における特色や取組について、体系化した計画としてまとめたものとなりますので、新しい給食センターの建物そのものや設備について記載することは、考えておりません。 過去に市民の皆様から頂いた、新しい給食センターに関するご意見、ご質問等は、現在国立市のホームページに回答とともに掲載しております。</p>
76		<p>・市民の意見を聞く場合は、行政にとって都合のよい意見だけをとるのではなく、反対意見も含めて、大部分の市民が納得できるものに修正するようにしてください。「意見を聞きました」というだけのパブコメが多いです。</p>	<p>いただいたご意見は、賛成だけでなく反対、ご批判も参考とさせていただき、多くの方にとって納得いただける食育ビジョンの作成を目指します。</p>